

第42回日田おおやま

梅まつり

「梅の里おおやま」では、毎年2月中旬から3月中旬にかけて約1万本の梅の花が見頃を迎え、山全体が白や淡いピンク色に染まります。期間中は梅園の開放や大山ダムライトアップナイト（大山ダム堤体）などを開催します。大山の春を満喫しませんか。

期間 2月13日(日)～3月13日(日)

会場 おおくぼ台梅園・ふるや台梅園

★**おおくぼ台梅園イベント**

◆**日時** 2月27日(日) 午前10時～

◆**内容** 豊作祈願祭のみ関係者で開催

※新型コロナウイルス感染症の影響によって、例年開催されるイベントの一部を中止します。

問大山まつり実行委員会 ☎ 3 1 0 1 (大山振興局内)

市長コラム

坂の上の雲を探して

81

新型コロナウイルス感染症の発生から、早2年が経とうとしています。これまでアルファ株、ベータ株、デルタ株、そして現在はオミクロン株へと変異を繰り返しながら、社会活動や経済活動に大きな影響を及ぼし、様々な場面で変革が求められています。これは一過性のことではなく、日田市のみならず、日本、アジア、そして世界の潮流として変化が進んで行くのではないかと感じています。

さて、政府は今年から本格的に「デジタル田園都市国家構想」の実現を打ち出しています。これは、地方が様々な課題に直面している中、地方からデジタルの実装を進めて、地方と都市の差を縮め、都市の活力と地方のゆとりの両方を享受できる国家構想を図っていることとするものです。

確かに、地方が抱える課題は数多く、少子高齢化、人口減少、過疎化、人手不足、仕事不足、医療や交通、教育への不安、多発する災害など多岐にわたります。そこで、様々な分野をデジタル化することで、リモート化をはじめ、人に代わる労働力の確保や効率化を進めるなどして、多くの課題に対応しようとしています。

市役所でも、事務事業の効率化を進めるためのデジタル技術の活用を進めており、事務処理の面で70%以上効率化できたものなど、その成果が伺えます。

また、救急の面でも、救急車と医療機関をつなぎ、搬送中の救急行為の充実を図ろうと計画を進めており、学校の現場でも、タブレットを活用した授業も開始するなど、生活の様々な場面でデジタル化は進んでいます。これらは、今回の新型コロナウイルス感染症による生活様式の変更を経験する中で、取り組んでいくこととなります。

デジタル技術を活用した人口減少、高齢化対策は始まったばかりです。今後は、デジタル人材の育成や確保、デジタル基盤の整備など、目先の課題解決も必要です。これからも市民の皆さんにこうした取り組みをお知らせしていきます。



広報ひたは、資源保護のため植物油インキを使用しています。



見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。